



株式会社高脇基礎工事

揺るぎない基礎を築き、確実な未来を拓く

50年超の施工実績とオリジナル工法であらゆる基礎工事に対応

1960年の創業以来、一貫して基礎工事を専門としてきた同社は、表に出る派手さこそないが、「縁の下の力持ち」として社会インフラや人々の生活を支え続けている。同社は国内外でのインフラ整備はもちろん、災害復興も行っており、特に途上国への技術指導・支援も積極的に実施している。

同社の技術力と独創的な工法開発は業界内でも高い評価を受けており、基礎工事のワンストップサービスを実現している。また、単独開発した工法は標準的な杭打ちとして、全国的に普及している。50年以上の確かな実績と信頼、技術を武器に、安心した未来の基礎造りを牽引する高脇基礎工事の門脇佳典社長にお話を伺った。



株式会社 高脇基礎工事
代表取締役社長

かどわき よしのり
門脇 佳典 氏

LEADER'S FILE

1963年（昭和38）8月生まれ。1986年立教大学卒業後、日鐵商事(株)入社。1993年に(株)高脇基礎工事に入社し、経営企画に従事。2004年に同社代表取締役社長に就任、現在に至る。オリジナル工法の普及を目的に1997年に「TBS工法協会」を設立し、同協会の会長を兼任。また、良質な有機肥料を生産する「よりのりコンポスト(株)」や、スポーツコミュニティ「SARI」等を支援し、地域活性化事業にも貢献。趣味はジャンルを問わず読書で、週1冊ペースで年間50冊以上を読破。好きな言葉は、元国鉄総裁の石田礼助が総裁就任後の国会初当院で発した「粗にして野だが卑ではない」。

建築物を支え続けて50年余り 縁の下の力持ち

—御社では、^{だせつ}「打設」「引抜」はじめ、さまざまな工法を用いた基礎工事をされていますが、仕事の内容について具体的にお聞かせいただけますか？

当社は、橋梁や河川・護岸、道路、そして災害復旧などの公共事業のインフラに関わる基礎工事を主に手掛けています。民間工事も請け負いますが、民間でも電力やガス、鉄道

などの公共性の高いものが多く、企業ビルや一般的なマンションなどの基礎工事はほとんどありません。比率でいうと、官庁関係が80%、民間が20%の割合でしょうか。

創業当時から一貫して社会インフラの整備に携わって50年余り、最近では、圏央道や東京スカイツリーの周辺の人道橋などの基礎工事も請け負いました。構造物としては有名かもしれませんが、当社の担当は基礎部分なので、まさに縁の下の力持ちですね。土中に隠れて見えません。

■あらゆる基礎工事に対応

長年蓄積された経験と技術力で、道路・上下水道工事、鉄道や橋梁関連、河川・護岸など、多岐にわたる分野の基礎工事に携わっている。



橋梁



河川・護岸



道路・上下水道

災害復旧



——創業当初は都内に本社を置かれていましたが、1964年に北本市に埼玉営業所を開設されています。当時から北本市とはご縁があったのでしょうか？

創業は1960年（昭和35）になります。父が仲間たちと共に土木関係の会社から独立して、都内の日本橋に「有限会社高脇組」を立ち上げたことが当社のスタートです。その後、1963年に現在の「高脇基礎工事」として法人化し、台東区の東上野に本社を構えます。私は同年の8月に誕生しましたので、会社と同じ年を重ねていることになります。

その後、1991年に北本市へ本社を移したのは、市内に当社の主力車輛や機材用のモータープールがあったことや、父が北本市生まれだったという理由からでしょうか。

現在は埼玉県を中心に、関東一円が営業工

リアとなっています。また、近隣の静岡や長野からも依頼をいただいています。そして2013年には宮城県岩沼市に仙台工事事務所を開設し、東日本大震災の復興のお手伝いもさせていただいています。

——社長は四代目になりますが、始めから家業を継ぐおつもりでしたか？

学生時代から跡を継ぐという確固たる考えは無く、大学卒業後は新日鉄の関連会社の日鐵商事に入社しました。

当社へ転職したきっかけは、「株式上場を目指す要員として手伝ってほしい」と声を掛けられたことです。日鐵商事での仕事も軌道に乗り、充実した日々を送っていたので、転職にはかなり迷いました。決断まで1年の猶予があり、色々考えましたが、店頭公開を目指すことは大きな魅力でしたし、やり

■5つの拠点で関東一円と東北をカバー



甲斐を感じたので、思い切って転職に踏み切りました。

オリジナル工法を単独で開発

——基礎工事にはさまざまな工法がございますが、中でも「TBS工法」（低騒音・低振動の鋼管杭・中掘拡大根固め工法）は御社が開発されたオリジナルの工法ですね。

工法の認定を受けるのは業界的には珍しいことではないのですが、「TBS工法」は、当社が開発した工法で、一社のみで単独開発は業界ではあまり例がありません。

新工法の開発には巨額な開発費がかかりますので、通常は数社の企業が集まり共同開発を行うのが一般的なのです。開発費はもちろんです。認定を受けるまでには年月を要します。その間、鉛直載荷試験（静的な荷重と沈下量の関係を把握し、支持力や地盤の特性値などを求める試験）や杭先端部の強度試験、掘り出し試験など、さまざまな実験や審査が繰り返されるため、多くの費用が発生し、単独での開発はかなりの負担となります。

TBS工法は、私の入社後に認定されましたが、開発はその数年前から続けられていまし

た。当社が単独で開発できたのは、バブル期に売上が伸びて、それを開発費として充てられたという時代背景も影響しています。

TBS工法はその後改良を続け、1997年にTBS工法の普及や施工体制の強化、施工技術の研究・開発を目指して「TBS工法協会」を設立しました。現在、北海道から沖縄まで、約40社近くの会員会社の登録をいただいております。今年設立からちょうど20周年という節目の年を迎えました。TBS工法の施工はこの20年で約1300件、施工総延長は、約637,600mに及びます。現在も全国で技術指導を行っています。

——TBS工法は、認定や技術審査の証明などを数回に渡り取得されていますが、その背景には、改良や技術指導等、企業努力があつての成果といえるでしょうね。

技術はリニューアルの繰り返しです。TBS工法を開発した当初はバブル期で建設業界も潤っていましたが、年々公共事業を取巻く環境は厳しくなり、現在の建設業界はかなり厳しい状況に置かれています。この状況下でも技術は日々進化していきますし、何もせずにいると陳腐化してしまうのです。当時のように単独で開発することは困難ですが、共同で開発を続け、他社と競合しながら技術を磨くことは必要不可欠なことです。

——50年以上もの長期間にわたり基礎工事に携わってきた御社ですが、同業他社と比較しての優位点、技術的な特徴をお話し下さい。

技術的に「この点に優れている」というよりも、当社の機動力とスタッフの質は他社にない強みだと自負しています。

関東圏だけで北本、川口、大宮、佐野の4拠点を設け、機動力のある営業体制をとっています。大型重機を輸送するため、現場が遠方すぎると輸送費やスタッフの宿泊費などのコスト面での負担が大きくなるのですが、当社は北関東自動車道に佐野営業所、圏央道には北本の埼玉営業所、外環道に川口の東京営業所

■標準化するまでに普及したオリジナル工法「TBS工法」

TBS工法の特徴

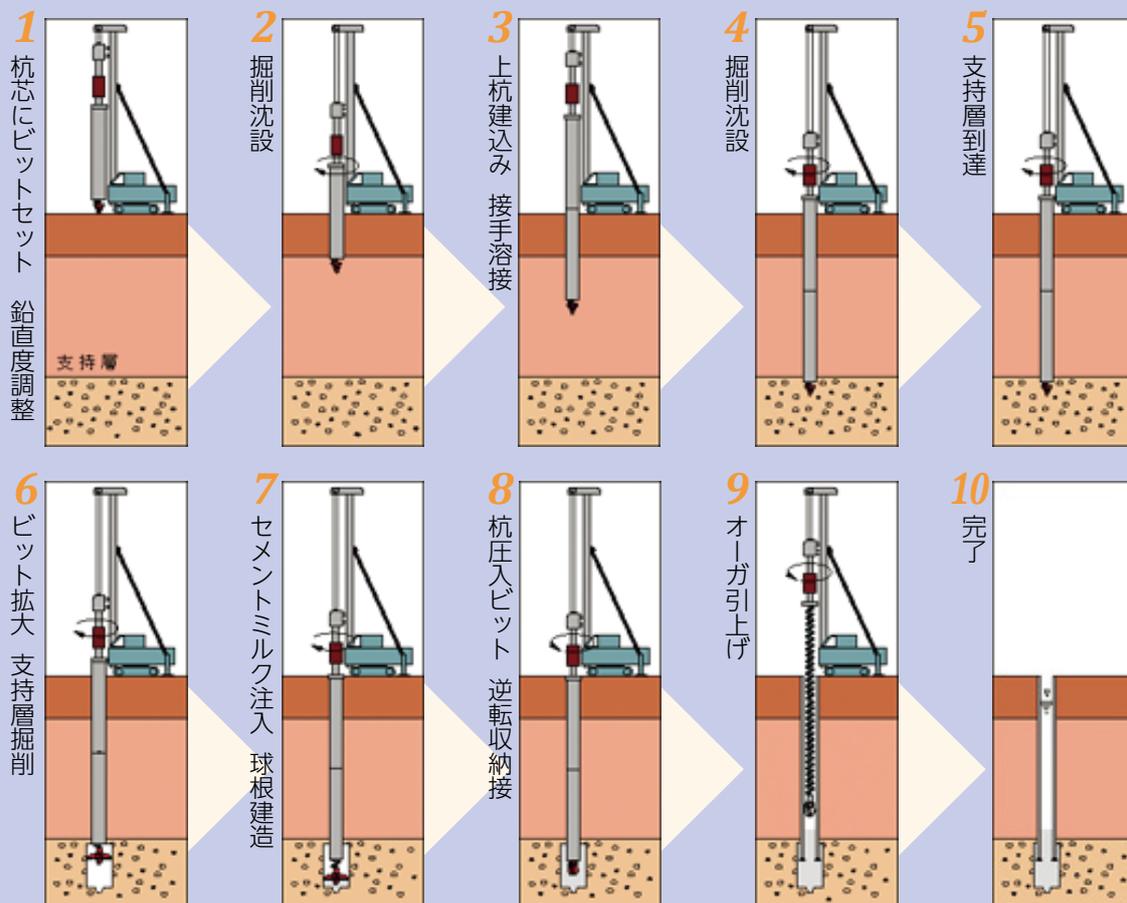
国土交通大臣認定・技術審査証明取得

- ① 建築・土木の両分野でオーソライズされた工法。
- ② TBSビットを取り付けたスパイラルオーガによる中掘りで杭を設置し、拡大根固め球根を築造するため低騒音・低振動。
- ③ 確実な拡大根固め球根が築造可能。
- ④ 杭径より大きい拡大根固め球根を築造することで、確実な支持力を実現。
- ⑤ 連続作業でスピーディーな施工が可能。優れた施工性。
- ⑥ 排出される土砂は一般排土として処理可能で、二次公害なし。



施工方法

TBS工法：Takawaki Base System（鋼管杭・中掘拡大根固め工法）



があります。4つの営業所のうち、事務を統括する大宮営業所以外は全て環状道路沿いにありますので機動力には大変優れています。

また、社員教育や育成にも力を入れており、スタッフの質の高さも当社の自慢のひとつです。実は埼玉県内では、建設会社で100人規模の会社は少なく、しかも元請けではないが、当社のような提案力を持った下請けを

行っている専門工事は極めて稀です。現在、100名近い現場スタッフが在籍していますが、そのほとんどが建設土木工事関係の有資格者です。

私が入社して来年で25年になりますが、その間、景気の良し悪しに関係なく毎年新卒を採用してきました。新卒に拘ったのは、生え抜き社員を育てて、その中から役員や幹部を

出したいという強い思いがあったからです。

近年、徐々にこの20年間の社員教育や育成の成果が現れています。当社は正社員比率が高いのですが、その中でも生え抜きの正社員比率が高く、人員構成も各年代が偏ることなくほぼ均一に揃うようになりました。

また、当社では、誕生日や年末年始など、催事も積極的に行っていて、社員とは良好な関係を保っていると思います。前述のように生え抜きの正社員比率が高いのは、働きやすい職場の雰囲気も一因かと思います。

——ここ数年、ベトナムからの技術研修生の受け入れを行っていますが、これは途上国でのインフラ整備に関する技術指導などが目的でしょうか？

当社では1999年の中国の揚子江災害における堤防補強工事の技術指導や、2012年のタイの洪水被害における洪水対策防水壁設置に伴う施工技術指導に協力したことがありま

すが、こうした災害支援などの経験を活かして、今後インフラが本格的な整備に入る東南アジアに対する貢献に取り組んでいます。

ベトナムからの研修生の受け入れは2014年から始めた取組みで、今後、インフラ整備が進むベトナムでの基礎工事と技術支援を目的としています。また、それと併せてベトナム法人の設立も目指しているため、そのための技術スタッフの育成のためでもあります。研修期間は3年間という限られた時間ですが、技術指導を行い、研修が終わると同時に新たな研修生を受け入れる予定です。

——今後、5年先、10年先を見据えた目標や取組みなどはございますか？

当社では設立50年を迎えた2012年から「チャレンジ55」という5か年計画に取り組んでいますが、ベトナム法人設立もこの計画で設定された目標です。ベトナム法人は今年設立の予定です。そして今年60周年に向けた次の5か年計画の「ネクスト60」を設定し、新しい課題に取り組んでいく予定です。

私が入社したきっかけとなった株式上場についてもまだ諦めてはいません。私の入社当時とは社会情勢も異なり、建設業界は厳しい状況に置かれていますが、株式上場のためには、それに耐えうる事業内容に変えていく必要があると思います。一朝一夕にはいかない非常に大きな目標で、私の代では無理かもしれませんが、次の世代にしっかりバトンを託したいと思っています。

実は私が社長として会社に籍を置くのはあと10年と考えているのです。その10年のうち、リーダーとして会社を牽引するのはあと5年、後半の5年は次のリーダーを育成し、ノウハウなどをきちんと受け継ぐことに費やしたいと思っています。

パブリックカンパニーのバトンを次世代につなぐ

——門脇社長は50代半ばとお若く、10年後

■世界の基礎工事のレベルUPに貢献

高脇基礎工事では、国内だけでなく、海外の災害復旧支援なども積極的に行っている。また、長年培った技術力を海外にも提供し、世界的な基礎工事のレベル向上のために貢献している。

近年では、タイの日系企業と海外業務委託契約を結び、洪水対策防水壁設置基礎工事の安全・施工管理、および技術指導を実施。また、中国長江に於いて、堤防補強工事の



技術指導を行うなど、現地からも高い評価を得ている。同社では、こうした温暖化による洪水対策など、世界が抱える環境問題対策の一翼も担っている。

タイ王国での洪水対策防水壁設置工事



も現役で十分会社を牽引できると思います
が、65歳で社長から退くことはあまり例が
ないことではないでしょうか？

父がそうしたように、役員定年の65歳で退くことは決めているのです。確かに元気で健康なうちは、周囲からも継続の声があるかもしれませんが、私がいる限り後進の育成を阻害する恐れがあると思いますし、育成の手も緩んだり、ゆっくりになってしまうのではないかと思います。また、現在のような目まぐるしく変化している環境下で、経営の舵取りをするには、私には器量が不足していると感じています。

次期社長は、健康で順調に成長してもらえれば、生え抜き社員初の取締役決めていて、彼にはすでに私の思いを伝えてあります。任命されたことで気持ちも引き締まり、社に対する姿勢も変わります。生え抜きの社員が社長に就任することで、周囲のやる気も変わってくると思うのです。昇進が全てとは言いませんが、努力することで結果がついてくる、そうした意識が社員全員に浸透してくれることも期待したいのです。

父は相談役として在籍していますが、役員で私と血縁関係にあるのは父ひとりになります。株主の半数以上は社外株主ですし、私の親族全て合わせた持ち株は過半数に達していません。また、当社は会社の規模からみると資本金額が大きく、それだけ第三者の目があり、責任があると思っています。身の引き締まる思いです。

——最後になりますが、社員の方々に期待することをお聞かせください。

創業から50年余り経ちますが、これまで培った技術力を評価いただいている古くからのお客様とは、引き続きよいお付き合いを継続したいと考えています。当社に入社以来、お取引先の経営陣の皆様より大変貴重な、心暖かいご指導を沢山いただき、今の自分があるのもそのお陰であると、心より感謝しております。

そして「ネクスト60」で提出された取組が芽が出て花が咲けばよいと思っています。上層部からのトップダウンではなく現場からの声や意見をできるだけ形にしたいと思っています。

日頃から社員に対しては、何事にも失敗を恐れずに挑戦してもらいたいこと、そして、ありのままの自分や自尊心、自負心を大切に、自分を高める努力を続けてほしいと伝えています。

当社は、「安全」「情熱」「誠実」「勇気」「創造」という5つの行動指針を掲げ、50年以上歩んで来ました。長年培った技術やノウハウをもとに、施工計画から新工法の開発まで、工事の一本化と最適化を実現してまいりました。この結果、技術力と独創的な工法開発により、2007年、2009年に国土交通省から「優良下請け企業」「優秀下請技術者賞」を受賞しました。今後も引き続き、建設業界の発展と、安心できる地域社会の確立を目指し、全社一丸となって邁進したいと思います。

株式会社高脇基礎工事 概要



創 業	1960年2月 (法人設立1963年4月)
資 本 金	443,320,000円
売 上 高	34億2,200万円 (2016年2月期)
従 業 員	108名
本 社	〒364-0001 北本市深井4丁目188番地
電 話	048-541-2653 (代表)
ホームページ	http://www.takawaki.co.jp/